

「2019 インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部・研究科1年 (原 綾香)

①学習成果

参加する前はアジアの文化やインドネシア美術への興味はあったが、インドネシアの生活に関しての知識はほとんど無かった。私は今までにアジアでは中国とインドに行ったことがあったが、現地の人と二週間という長い間交流するのは初めてだった。このプログラムを通して、私はインドネシアの人々と自分が予想していたよりも仲良くなることができた。そして友達との交流の中でインドネシアの生活を体感することができた。インドネシアの人々はとても真面目であたたかい人達ばかりであった。インドネシアでは宗教が強く根付いていて、挨拶の言葉もイスラム教のお祈りに合わせられている。私が無気なく、犬が好きと言ったり豚の生姜焼きが美味しいと言ったりしたとき、イスラム教の友達が少し気まずいような顔をした。私の無知から、そのような顔は友達にはさせたくないと思った。もっと宗教について知らなければと感じた。インドネシアのあたたかい人格はインドネシアの常夏の気候と関係しているかもしれないと思った。そこで次は北欧諸国やロシアに留学してみたいと思った。

②海外ならではの経験

インドネシアでの生活の中で、私は今まで生きていた中で一番日本が恋しくなった。アメリカに一年間留学した時は全くホームシックにならなかったのが驚いた。インドネシアには日本料理が浸透している。ショッピングモールに行けば、ほか弁・吉野家・ラーメン・しゃぶしゃぶ等お馴染みの料理が当たり前と並んでいたし、大学の寮の階下には日本料理屋があった。病み上がりにもこの日本料理屋でうどんを食べたとき、とても安心する気持ちになった。他のお腹を下していた参加者もこのうどんを食べて物凄く染み渡ると語っていた。日本の味や文化が私達日本人には染みついていてののだなと改めて感じた。また日本料理の魅力も再発見できた。

③プログラム内容

平日は朝9時からインドネシア語の授業があり休憩をはさみつつ、1時頃に終わる。インドネシア語の授業では自己紹介、道案内、時間等日常会話を学ぶ。昼食後は4時から6時まで発表準備がある。この間にバティック体験や楽器体験がある日もあった。楽器体験では伝統的な楽器を演奏する。これが意外と難しいことを先生に要求され中々楽しかった。発表準備は友達と話しながら行う。発表準備の後はそれぞれ夜ご飯をショッピングモールに食べに行く。ほぼ毎日インドネシアの人達が案内してくれた。土曜日はタマンミニヤコタトゥアーに行った。日曜日は各自バディーで自由行動で私は現代美術館に連れて行ってもらった。

④進路への影響

私はこのプログラムを通して、インドネシアへの印象ががらっと変わった。こんなに日本に興味を持ってくれている人達がいることに驚き、もっとアジアの人々と臆せずに関わりたいと思った。インドネシアの問題の一つに渋滞がある。渋滞の要因の一つとして信号が無いことがあると思った。信号が無いので歩行者が渡るとき車はいちいち止まらなくてはならないし、それが危ないので人々は車やバイクを利用し交通量が増える。しかし信号を作ったところで、何十年と信号無しで生きてきた人々がそれを守るとは思えないし、難しいなと思った。渋滞を軽減するはずの電車も既にかかなり混雑しており、どうしようもない、と思った。このような問題を少しでも解決する方法を工学の視点からもっと考えたいなと思った。